



## 大学と市民を結ぶ学生団体 「八王子学生委員会」

毎年5月に大学合同学園祭「学生天国」開催

八王子地域23大学（大学、短大、高専）と市民を結ぶ活動をしている学生団体がある。八王子市の要請に基づき、八王子市の学園都市づくり及び地域社会の発展に寄与し、学生の街・八王子の魅力づくりを目的として、1996年6月に八王子市学園都市事業推進学生委員会として設立された団体で、1999年に現在の名称「八王子学生委員会」に変更された。

### 年間通じ盛りだくさんの活動

八王子学生委員会の活動は盛りだ

くさんだ。毎年5月に開催する八王子地域23大学合同学園祭「学生天国」を始め、6月から7月にかけての情報誌「八王子地域大学情報」の取材、編集協力や、7月には七夕祭りのサポート、8月には八王子祭りの清掃ボランティアと夏休み子ども交流教室の協力と、毎月のように活動が目白押しだ。

9月は国際交流フェスティバルに参加・協力、10月はマイバッグ利用促進の啓発活動「『まち』大学」全国サミットin八王子に参加、11月は八王子いちよう祭りで学生広場とステージの運営、さらに9月から11月にかけては八王子地域23大学・短大・高専の学園祭の取材、ホームページ掲載など、多種多様な活動を行っている。

### 学生と市民の交流深める

これらの活動の中でも特に力を入れているのが、八王子地域23大学合同学園祭「学生天国」だ。「学生天国」では、各大学のサークル等の団体の出し物はもちろん、各大学のパンフレットやグッズの配布や、簡単な学校説明会が行われる大学紹介エリアが設置されている。

同委員会委員長の光村芳文さん（写真左）（東京工業高等専門学校4年）は、「市民の皆さんに学生の生の声を聞いていただきたい。市民の方々を意識したイベントも行っていきます」という。

今年5月の「学生天国」の参加団体は、7割が常連、3割が新規だった。「最寄駅が八王子駅の大学は多く参加しますが、中大は少ないですね」と中央大学総合政策学部3年で、同委員会副委員長の近岡紗織さん（写真右）は、残念そうに話す。ただ、今年は中大からは、タツパダンスサークル「Fretter」が参加した。

今後の「学生天国」について光村さんと近岡さんは、口をそろえて、「もっと参加団体を増やしたい。今の倍くらいにしたい」と熱く語った。

### 活動参加で、社会見る目を養う

#### いろいろな価値観学ぶ

ところで、中大生でもある近岡さんは、どうしてこの団体に入ったのだろうか。近岡さんは、前委員長に「街づくりに興味ない？」と誘われたのだという。「協力し合って何かやるのが好きだった」からでもあった。

そして今、近岡さんは、このように考えながら、委員会の活動に参加している。

「色々な職種の会社の方と出会えるので、自分がなりたい業種の方々と知り合える。インターンシップをやっているみたいですが。大学にいと違って、刺激がある。大学にいるときは違う視点で社会をみることができる」

また、近岡さんは、「活動をはじめてから、考えていることが通じないことに気づいた。いろいろな価値観があることを学んだ」という。そして近岡さんは、「もっと市民と学生が触れ合えればよいと思う。ただ八王子で勉強して帰るのではなく、つながりを持つことで継続的な関係が生まれてくる。ちよつと足を延ばしてもらえれば、違うものが見えてくる」と強調した。

◇

◇

この取材は、八王子市学園都市センターで8月6日に行いました。光村芳文さんと近岡紗織さんは11月30日に任期満了を迎え、委員長、副委員長を退任されました。

（学生記者 上田雄太（文学部3年）